

# 個人の保育者特性プロフィールの視覚的な 診断から見えてくるものとは

— 導入を試みて —

清水 幸子 佐藤 雄紀

キーワード 保育者特性 NTI 保育者養成 学習支援

## I はじめに

保育者養成課程に入学してくる学生が、2年間の在籍期間中に資格科目の履修により学力と技術を身につけ、さらに実習を経験することで、保育者としての資質を身につけていく。そしてそのほとんどの学生が保育現場に就職していく。このような状況の中、2年間という短い時間の限られた中で、保育の心や基礎をしっかりと身につけていくために、本学では少人数制のゼミナールを必修科目として開講し、教員は担任としての役割を担い、1年を通じて担当する。授業内容は主に個別面談を中心に学習支援や実習準備指導を適時行ない進めていく。特に、入学後4月・5月頃は、高校までの授業との違いや、各科目内容についていけないなど学びの最初の段階でつまづく学生も多く、相談内容も様々である。教員は、面談でも見えにくい内面的な個々の特徴を早い時期に把握し、互いに信頼関係を築くことがとても大切な時期である。

これまでは、学力的な評価以外には個別面談で個々の特徴を把握し、教員経験から得た感覚的なもので理解する方法であった。しかし、この方法では一定量の判断が難しく、具体的な特徴が見えにくいと感じていた。そこで、学生の特徴を視覚的に判断できる方法を検討し、その一つとして、2013年に保育者用に開発された保育者特性インベントリィを試用し、その結果から、つまづきをできるだけ早い時期にフォローし、学習支援につなげていければと考え、実

施を試みた。これまで、江田（2007）、伊澤・永房・星（2007）などが保育士や幼稚園教諭の資質に関する研究結果を報告したものや、垂水・金・林（2011）がSG式総合職業適応検査の結果を分析し保育者養成校におけるキャリア教育の課題を報告した研究がある。

しかし、藤村（2012）が新しく研究開発し、個人の保育者特性プロフィールの特徴が視覚的に把握することが可能になった、保育者特性イベントリィ（NTI）（発行者 竹井機器工業株式会社）を活用した報告はほとんど見られない。まだ導入した事例報告もほとんど見当たらない。

そこで本研究では、保育者特性インベントリー（NTI）を実施し、入学時どのような行動傾向があり、特徴が見られるのか、診断結果から、個々がまず自身の特性を理解し、自己開発の一つとして活用できるのではないか、合わせて学習支援や演習・実技系科目の学習にも着目し、教員側の指導の工夫についても検討していくべきであると考えた。また、活用方法として実技や実習に関わる教員が各学生の行動特性を理解するとともに、課題を整理することでより効果的な学習支援の方法を見出すことが可能になると考え研究を行なった。

## II 方法

### 1. 対象者

本研究の研究対象は信州豊南短期大学幼児教育学科1年生のうち、著者の担当する基礎ゼミを履修している9名（男子3名、女子6名）を調査対象とした。いずれも幼稚園教諭2種免許状、保育士資格取得を目指している学生である。

### 2. 検査

基礎ゼミ（前期15回）の第3回目（4月）授業の中で行なった。検査はNTI（竹井機器工業株式会社）を使用し、実施手引に基づき注意事項などを説明したのち実施した。内容は49の質問項目からなり、「いつもの自分にどの程度当てはまるか」を5段階で回答する。制限時間はないが、各質問項目も素早くありのままを回答する。

表1 検査用紙の例

次に下記の1～28の質問に回答してください。		全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	非常にあてはまる
1.	人のために働くのが好きである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
2.	人の気持ちになって喜んだり悲しんだりすることがたびたびある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(出典) 竹井機器工業株式会社 NTI 実施手引より作成

### III 診断結果

各項目についての回答に「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」に0～4を配点される。ただし、逆転項目については4～0を配点。各尺度は7項目からなり、尺度項目の合計点を求め、尺度得点となる。実施の手引きに従いながら、監督者が指示し、各個人が計算し作成していく。

#### 1. 尺度得点の算出

検査用紙は5枚複写で構成されており、4枚目の「尺度得点計算シート（図1）」に各個人の回答が複写されている。まず、○印の付いている数字を横に合計して、左の口の中に合計点を記入する。次に口に記入された数字を今度は縦に合計して、最下段の合計欄の口に記入する。これが7つの特性の尺度得点になる。

#### 2. NTI 判定票の作成（図2）

##### (1) NTI プロフィールの作成

検査用紙5枚目の最下段に複写されている7つの尺度得点を、保育者特性プロフィールの尺度名のところに該当する○を塗りつぶす。次に隣同士の丸印を図3のように線で結ぶ。

##### (2) 因子水準評価の作成

NTI プロフィールの右にある因子水準評価欄の最下段の空白部分から順に

1) 情緒的受容性得点 (愛他性、共感性、養育性の各尺度得点の合計点)、2) 思考的繊細性得点 (論理的思考性、気働きの各尺度得点の合計点)、3) 行動的積極性得点 (社交性、行動力の各尺度得点の合計点) としてそれぞれの合計点を記入。これらの因子水準得点の該当する○を塗りつぶす。次に、隣同士の丸印を図4のように線で結ぶ。

### 3. NTIプロフィールと因子水準評価の読み方

NTIプロフィール上部中央に上から5～1の数字が印字されている。これは5段階標準点である。5段階標準点は、尺度得点の分布を得点の低い方から高い方に、7%、24%、38%、24%、7%の領域に分割され、それぞれ1～5点を配点されたものである。7つの尺度をレーダーチャート式に表しているのが、NTIプロフィールである。各尺度の標準点は、その特徴が、1の場合は非常に弱い、2の場合はかなり弱い、3の場合は平均的、4の場合はかなり強い、5の場合は非常に強いと評価される。因子水準評価の5段階評価についても同様である。

### 4. 保育者特性尺度得点にみる特徴

表2は7つの保育者特性尺度における得点の高低が具体的にどのような行動傾向となって現れる可能性があるか示したものである。表中、低得点とは標準点1、2が、また高得点は標準点4、5がその範囲に入ると考えてよいと示されている。さらに分布の確率から、2よりも1の方が、また4よりも5の方がその傾向が強いとされている。



表2 保育者特性尺度得点に見る特徴

特性尺度	低得点	高得点
愛他性	自己本位で自己中心的傾向が強い。他者から見れば利己的に見える場合がある。自分の関心のあることは熱心に行うが、他人のことには、自分と利害のある部分以外には関心を示さない傾向が強い。	見返りを求めないで他者の利点になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係なく相手のために行動することが多い。
共感性	人の感情や気持ちを共有したり、情緒的コミュニケーションができてにくい。人の気持ちを理解したり、察することができにくく、自己本位な行動をとりやすい。	人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる。情緒的に受容的であり、人との情緒的コミュニケーションが成立しやすい。
論理的思考性	自分の経験や、感情、思い込みや衝動で行動しがちである。物事を論理的に理解することが苦手で、計画的でない。物事をあまり深く考えないといった特徴が見られる。	多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論や法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。
気働き	人の気持ちに鈍感で、人の感情や気持ちの機微を感じる事が非常に不得手である。人の様子や表情からその内面を察することがあまりできない。	人の心の状態、気持ちなどを繊細に感じ取り、きめ細かな気遣いをする傾向が強い。人のちょっとした変化をも気づく繊細な感覚を持っていて、適切に対処できるといった特徴を示す。
社交性	人と交わるのが苦手で、対人関係に消極的である。人と関わることにストレスを感じ易い。人の集まる場所は苦手で、一人でいる方を好む傾向が強い。	人と気軽に交わり、対人関係に積極的に広く人々と交流する傾向が強い。人当たりが良く、気さくで相手を緊張させないで人と関わる事ができる。
行動力	物事に消極的である。自分から積極的に物事に取り組むことができない。実行力、問題解決能力に乏しい場合が多い。	物事に自主的、積極的に取り組む。良いと思ったことは実行し、問題解決に能動的で、実行力があることが多い。
養育性	子どもの世話や子どもの成長に役立つとうとする傾向がほとんど無い。幼い者への関心が薄く、その成長を喜ぶといった気持ちが弱いことが多く見られる。	子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまない。子どもの成長を喜ぶ気持ちが強い。子どもにとって自分が良い影響を及ぼそうとする傾向が強い。

(出典) 竹井機器工業株式会社 NTI実施手引より作成

## 5. NTIプロフィールの解釈と実際の特徴

### 保育者特性プロフィール例

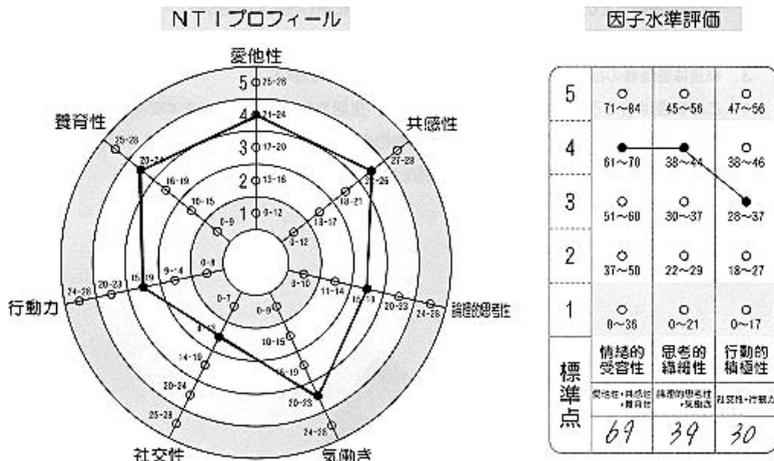


図 5-1 個人サンプル 1

図 5-1 は、愛他性得点が 24 (標準点 4)、共感性得点が 25 (標準点 4)、論理的思考性得点が 18 (標準点 3)、気働き得点が 21 (標準点 4)、社交性得点が 12 (標準点 2)、行動力得点が 18 (標準点 3)、養育性得点が 20 (標準点 4) のレーダーチャートである。この場合、見返りを求めないで他者の利益になること、他者が喜ぶこと、他者のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向が強い。自分の損得に関係することなく相手のために行動することが多い。子どもに対する思いが強く、子どもの世話をしたり、援助したり、子どものことに労を惜しまない傾向が強い。しかし、社交性に乏しく、人と交わることが苦手で、対人関係に消極的な部分もあり、人と関わることにストレスを感じやすい特徴を持つ。

(実際の実技科目における特徴)

しっかりとした印象であり、他の学生と協力して行なう時には、必ず手伝うことや、声を掛け合い、周りをよく見て行動する部分が特徴的である。また他

の学生を助けたりする場面も多々見受けられる。

(ピアノの授業の場合)

授業で出された課題はしっかりやってくる。だが自由曲を選択する際、自分から意欲的に曲選びをするような高い学習意欲はなく、教員に任せる傾向がある。歌唱の場面においても照れ性の部分もあるのか「大きな声で歌おうね」と声をかけるまで、消極的でなかなか最初からしっかり声を出せない。その反面、苦勞している友人を気にかけてたり、最後まで面倒を見てあげるといふ内面の優しさを持っている。

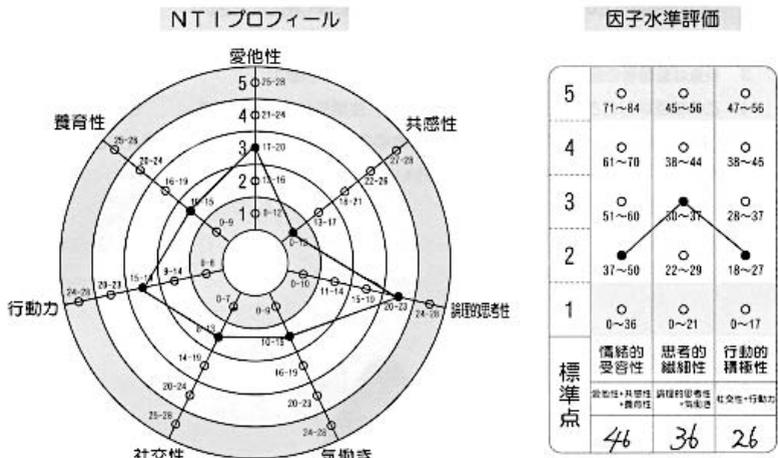


図 5-2 個人サンプル 2

図 5-2 は、愛他性得点が 19 (標準点 3)、共感性得点が 12 (標準点 1)、論理的思考性得点が 22 (標準点 4)、気働き得点が 14 (標準点 2)、社交性得点が 9 (標準点 2)、行動力得点が 17 (標準点 3)、養育性得点が 15 (標準点 2) のレーダーチャートである。この場合、多面的に物事を考えたり、物事を解ろうと努力し、事実や論理、普遍的な理論が法則性などを基準に物事を認識しようとする傾向が強い。反面、共感性に極めて乏しく、養育性も乏しい。

すなわち人の感情や気持ちを共有したり、情緒的コミュニケーションができにくく、自分本位な行動をとりやすい。また、子どもの世話や子どもの成長に役立とうとする傾向がほとんどなく、幼い者への関心が薄い特徴がある。

(実際の実技科目における特徴)

とてもクールに立ち振る舞う印象であり、あまり周囲を見ている様子はない。しかし与えられた課題などには真面目に取り組み、効率よく行動する特徴が見られる。また苦手な課題にも密かに努力し取り組む様子も特徴としてあげられる。

(ピアノの授業の場合)

非常に積極的に取り組み、課題をこなす能力も高い。気持ちよく受け答えもできる。人とのコミュニケーションはしっかり取ることができるが、人の気持ちになって物事を考えたりするのは多少苦手なようである。他の人のことになると、とてもあっさりしているところがある。自分のペースで課題をこなしていくのは非常に得意なようである。

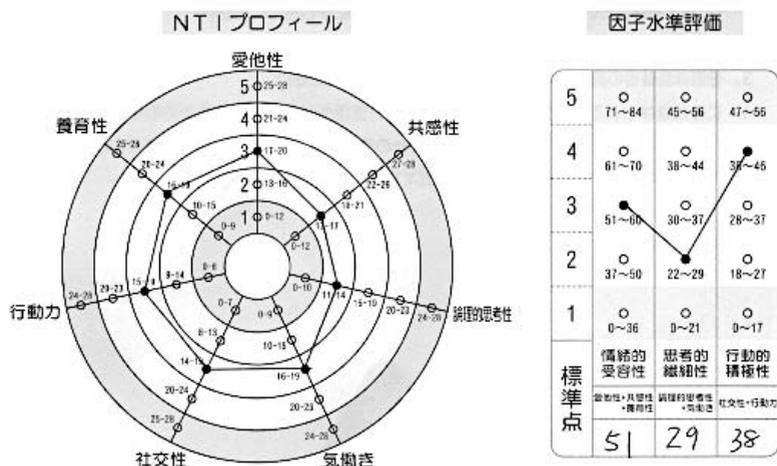


図 5-3 個人サンプル 3

図5-3は、愛他性得点が20（標準点3）、共感性得点が15（標準点2）、論理的思考性得点が12（標準点2）、気働き得点が17（標準点3）、社交性得点が19（標準点3）、行動力得点が19（標準点3）、養育性得点が16（標準点3）のレーダーチャートである。この場合、人と気軽に交わり、広く人々と交流できる特徴がある。また人当たりが良く、気さくに行動できる傾向が見られる。その反面、物事を論理的に理解することが苦手で、物事をあまり深く考えないで衝動的に行動するといった傾向にある。

（実際の実技科目における特徴）

常に周りを和ませる明るい雰囲気を持っている。また何事も笑顔で取り組み楽しそうな印象である。しかし苦手な課題は計画的に練習をするより、その時々で気分が何とか間に合わすと言った土壇場勝負が得意な面も見られる。

（ピアノの授業の場合）

データにもあるように、人と気軽に交わることができるため、レッスンを行っても大変反応が良く指導しやすい。器用ではなく、ペースも決して早い方ではないが、人の言うことを素直に聞くことができ、練習方法や今の課題や内容が理解できると真面目に取り組む。グループ学習の場面においては、友人とコミュニケーションを取りながら、作業を進めるのは得意なようで懸命に取り組む姿がある。また、目の前の何かを得ようと努力することはできるが、目をふと離すと集中力に欠ける場面が度々見受けられる。

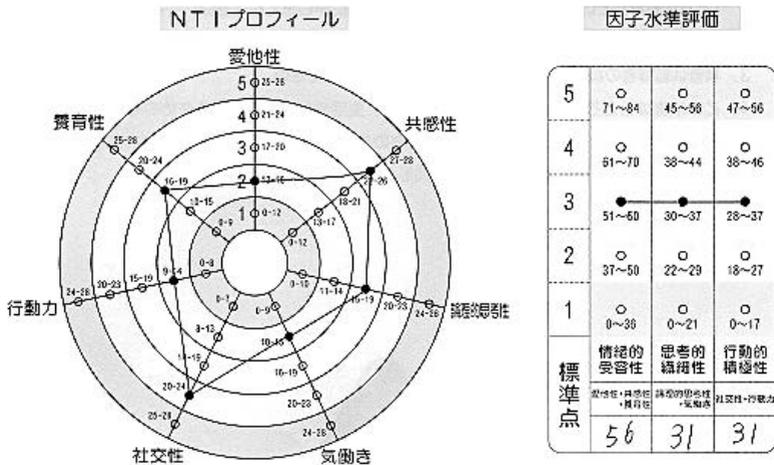


図 5-4 個人サンプル 4

図 5-4 は、愛他性得点が 14 (標準点 2)、共感性得点が 24 (標準点 4)、論理的思考性得点が 18 (標準点 3)、気働き得点が 13 (標準点 2)、社交性得点が 20 (標準点 4)、行動力得点が 11 (標準点 2)、養育性得点が 18 (標準点 3) のレーダーチャートである。この場合、人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向が強く、人に同情的で、人の気持ちを大切にできる傾向が強い。また、対人関係に積極的に広く人々と交流する特徴もある。その反面、自分の関心のあることは熱心に行うが、他人のことには、自分と利害のある部分以外は関心を示さない傾向が強い。また新しいことに自分から積極的に取り組むことができない。

(実際の実技科目における特徴)

真面目に取り組むが、自分の範囲内で行動している。例えばできることは努力するが、苦手なところはなんとなくこなし、技術を高める工夫や努力はあまり感じられない。また表情は控えめで出さない分、自分の中に秘めた強さがあり、しっかりと確実に前進しようとする様子が伺える。

(ピアノの授業の場合)

授業に対して大変積極的という訳ではないが、芯の強さが感じられ、自分の課題に対してコツコツと取り組むことができる。また、人に対して教えてあげたりすることはできるが、自ら工夫したり、グループ学習や人とコミュニケーションを取りながら一緒に進める活動は苦手なように見受けられる。

#### IV 考察

本研究では藤村（2012）が新しく研究開発した保育者特性インベントリィ（NTI）を本学幼児教育学科の本ゼミナールの1年生9名に実施を試みた。実施は入学した4月に実施し、結果はその場で学生各自が集計し、判定結果を確認した。またこの結果は、ゼミナール担当教員と、各学生が情報を共有できるように、面談時に説明を加え、各自のキャリア手帳に添付し、必要に応じて活用できるようにした。

保育者を目指す学生が入学時にどのような行動傾向があり、特徴が見られるのかについて、これまでは授業での取り組みなどからある程度感覚的に把握していた。特に実技系の科目においては、各学生の動きの特徴や行動、課題への取り組みなどから判断し、指導に活かす場面が多かった。しかし可能な限り、ある一定の尺度で診断できる数的なデータを活用することで、入学時の段階で各学生の特徴を理解し、学習支援や実習指導、さらにはキャリア教育に役立て、2年間という限られた期間でより成長を促すことのできる指導の方法を見出すことができればと考え実施を試みた。

実施後、診断結果は学生と教員とが互いに理解しやすい内容であり、面談時や個別の学習指導においてとても有効であった。また特に養育性の項目においては、子どもに関わる場面での特性であり、教育実習や保育実習等に行く前に各学生が自身の特性を把握できていることは重要であり、弱い部分は早い段階に指導内容に取り入れ、学生同士の関わりや、子どもとの関わり方など、特に対人関係の部分を成長できるよう支援方法を工夫した。

さらに、NTI プロフィール診断結果と実際の授業から見えてくる行動の特徴

を合わせて見ていくと、各学生の学習への取り組みや対人コミュニケーションの場面での行動がより鮮明に理解できることが分かった。例えば個人サンプル1の結果では、因子水準評価が、3項目とも平均的と評価される標準点3点以上であり、全体的に評価が高い。しかし、標準点3点であった行動的・積極性の項目においては他の項目と比較すると劣っている部分であり、実際の実技場面での特徴からは、積極性に関してもっと意欲的な態度が期待されており、気になる点として、また努力項目として指摘されている。このことから、今回のNTI判定表の結果において、平均的とされる標準点3点または3点以上であっても、他の項目や全体を総合的に見た場合、点数が低い項目に関しては、授業や実習を通して学生自身の努力や教員側の支援が重要であり、いろいろな場面から成長を促すことが望まれる。

最後に、今回の試みから入学の早い段階から、各学生の特性を一定の診断結果から学生自身が理解し、自己開発の一つとして活用できること。また、教員側の指導にいかせる可能性が確認できた。これまで小笠原・金谷(2013)の保育者養成における新入学生の意識調査から、入学当初の学生の意識を把握することから始め、求められる保育者像に自らを育てようとする意識を、実習を通して養っていくこと述べている。このことから、今後は入学時の本学幼児教育学科の全学生を対象にした導入も検討し、各学生、各教員が有効な活用方法をさらに見出し、実践できればと考えている。また2年間の本学での学びや教育実習・保育実習で得た体験から、この診断結果のどの項目がどの程度変化するのか、卒業後の進路との関係についてなど、保育者養成校として学びの成果をまとめていくことも重要と考え、今後の課題としてあげておく。

## 謝辞

本研究においてご協力いただきました本ゼミナール1年生の学生に心から感謝申し上げます。

## <文献>

伊藤永修・永房典之・星道子, (2007), 保育者適性尺度作成の試み, 東京文化短期大学紀要, 24, 5-10

江田美代子, (2007), 保育士に求められる資質能力に関する調査研究, 宮崎女子短期大学, 34, 31-46

小笠原眞弓・金谷有希子, (2013), 保育者養成における新入学生の意識, 和歌山信愛女子短期大学信愛紀要 53, 51-60

垂見直樹・金俊華・林幸治, (2011), 保育士養成校におけるキャリア教育の課題, 近畿大学九州短期大学紀要, 41, 59-69

藤村和久, (2012), 保育者特性イベントリィ (NTI) の標準化, 大阪樟蔭女子大学研究紀要, 2, 23-33

藤村和久, (2013), NTI 実施手引 (手採点用), 竹井機器工業株式会社